

生涯学習情報誌

Life Learning

2019
Feb.
NO.342



祝

2017年7月 東京大学博士号(文学)取得

文聖姫さん(取得時55歳)

【論文テーマ】北朝鮮における経済改革・開放政策と市場化

論文を活かした新書『麦酒とテポドン』で、北朝鮮経済のリアルに迫る

■ジャーナリストが見てきた北朝鮮

日本で報道される北朝鮮情報は、拉致問題や長距離弾道ミサイルなどネガティブなものが多く、経済や人々の暮らしに焦点を当てた情報は少ない。

文聖姫さんは青山学院大学からコリアンコミュニケーション紙に就職し、20年間務めた。主に北朝鮮関係の記事を担当し、1996年と2003年には特派員として北朝鮮の首都・平壤にも滞在した経験を持つ。北朝鮮が日本人拉致を認めたときはショックだった。記事を書く中で、ベールに包まれた(と多くの日本人が感じている)北朝鮮の実際の姿を頭にしてみた。2006年に退社し、2008年、東京大学大学院人文社会系研究科に入学。経済という比較的数量化しやすい領域で学術的にアプローチした。研究を始めてからも4度の訪朝をし、定点観測の結果をハンガリーの経済学者コルナイの指標に照らし、市場システムの発達具合を測定していった。予定より時間はかかったが、博士号を取得した。

特派員として最初に北朝鮮を訪れた1996年は、大水害をきっかけに終戦後最大規模となる飢饉が発生。「苦難の行軍」というスローガンを掲げて乗り越えようとしていた厳しい経済危機の時期だった。それが、2003年、2008年と訪れるに連れて、国民が必需品を入手するために自然発生した「市場」の数も顕著に増えていた。南北融和路線、小泉総理訪朝と一部拉致被害者の帰国、六か国協議などを通して、行きつ戻りつしながらも、諸外国とうまくやっていくという意志が見て取れた時期と

重なる。

もちろん北朝鮮は統制経済で、そうした市場の発生を望んでいたわけではないが、見て見ぬふりをすることで、市場経済のシステムが根付いていったのではない。

韓国との南北経済協力や経済特区を進めていた2000年〜2008年は、政府主導の計画経済の枠組みの中とはいえ、結果的に中国企業や韓国企業の進出を受け入れるなど、市場経済のシステムが浸透しつつあった。

■市場経済への転換が顕在化してきた

博士論文は決して予測の書ではないが、文さんが博士号を取得した2017年の時点では、盛んに核実験や長距離弾道ミサイルの発射実験を海外にアピールしていたにもかかわらず、2018年には明らか



予備論文から一転して、博士論文では序論だけでも10回の書き直しをさせられるなど、挫折を何度も味わった。

かに経済を意識した政策に舵を切った。アメリカと対話し、韓国との融和路線を取る金正恩は、非情の独裁者から、案外と良いやつに印象さえ変えてきた。良くも悪くも統制には自信を持つ北朝鮮政府。核や武器に頼らず、経済で他国と交流することで、政府の目指す統制の上に成り立つ市場経済は、意外と早く実現するのではと文さんは見ている。

■ビールで打ち解けて本音を引き出すことも

文さんの周りの若い院生にはけっこう怠けている人もいて、「ちゃんとやりなさい」と叱ったこともある。それに比べて社会人の院生はコツコツと頑張る人が多い。奨学金は得られるが卒業後に月数万円の返済が始まる。返済しなくてよい財団の博士号取得支援事業は経済的にも助かり、励まされた。本事業は後輩から教えられて応募したが、今度は自分が周りに教えているのだという。

望んでいた大学教員の席は得られなかったが、バイトだった出版社で正社員になった。「就職に役立たなくても人生のプラスにはなる。みなさんもあきらめず挑戦してほしい」。以前より成長したジャーナリストとして発信したいという。

さっそくだが、先ごろ文さんの著書『麦酒とテポドン』(平凡社新書)が出版された。論文でも評価された、度々の現地取材に基づく北朝鮮を紹介。「経済から読み解く」としながらも、女性のファッション、韓国より美味しいとされるビール、バーやファストフード店など、ベールの向こう側の人々の生き姿が透けて見えて興味深い。

ようこそ！

和楽器の

世界へ ④

ササン朝ペルシャの「バルバット」が起源とされている琵琶。日本へは、奈良時代に中国から伝来した。正倉院に保存されている国宝で美しい装飾の螺鈿紫檀五絃琵琶は、世界唯一の古代五絃琵琶とされる。

現在は、大きく分けて5種類の琵琶がある。

1つ目は、奈良時代に中国から伝来した楽琵琶。雅楽の管弦、催馬楽に用いる。全長約100cm、幅40cmと後世の琵琶よりも大型で、

唐代の琵琶の形をほとんど、そのまま現代に残している。声は使わず合奏の中で和音を演奏し、リズム的に支える役割を果たす。

琵琶

Biwa



♪音を聴いてみよう！

財団のWEBサイトで、琵琶の音色が聴けます。

www.gllc.or.jp/llm/magazine/wagakki/

または、左のQRコードからどうぞ。



2つめは、盲僧琵琶。楽琵琶と同時代に中国から九州に伝来し、仏教の説経節と結びつく。

3つ目は、中世に盛んになった、琵琶法師が平家物語などを語る平家琵琶。

4つ目は、室町時代末期に始まったとされる薩摩琵琶。撥を激しく打ち付ける奏法が特徴だ。現代音楽にも用いられ、武満徹の「ノヴェンバー・ステップス」(1967年)は海外でも注目された。

5つ目は、明治時代に福岡県で始められた筑前琵琶。薩摩琵琶より音色は柔らかい。薩摩と筑前はサワリと呼ばれるビーンと伸びる音の特徴。

写真は筑前琵琶。琵琶本体はもちろん、撥の形やサイズも違う。

藤高理恵子

Fujitaka Rieko



神奈川県逗子市出身。筑前琵琶を田原順子氏に師事。古典弾き語りや現代邦楽の演奏活動を行うと共に、現代語によるオリジナル作品の創作にも力を注いでいる。また芝居や無声映画の伴奏、書道・茶道・生け花など他ジャンルとのコラボレーションも行う。2008年第5回東京邦楽コンクールにて日本現代音楽協会賞受賞。2009年第15回くまもと全国邦楽コンクールにて優秀賞受賞。

10代の時に海外で過ごして、日本人なのに日本のことを何も知らないということがコンプレックスでした。いつか日本人ならはのことを身につけたいと思っていましたが、海外の人とも交流できる和楽器演奏は良いなと感じたのです。

演劇に接した時期があり、語って演奏する琵琶に、ミュージカルのような親近感を抱いたのが選んだ理由です。28歳の時で、まさに生涯学習として琵琶を始め、のめり込んでいきました。今は、一般の方が知らない琵琶の魅力を伝えたく、プロの和楽器集団にも所属し、演奏活動をしています。

●琵琶の魅力は？

琵琶は元々、平家物語や合戦物を語るための伴奏楽器で、初めて琵琶を聴く人にとっては、少し難解かもしれません。琵琶を習ってみたくて、でも、演奏と語りを両方やるのは難しいと感じて、手を出せない方もいらっしゃるようです。

しかし、独特の音色を活かした楽曲の演奏もできますし、語りも現代の言葉で語って聞かせることもできます。楽しいこともできるんだということを伝えたいと思い、まずは琵琶に触るだけの教室もやっています。「琵琶って面白い」と気がづ

いて、次にまた聴いてくれる人、自分も弾きたいと思ってくれる人を増やしたいからです。それが今、積極的に取り組むモチベーションになっています。

楽曲演奏における琵琶の魅力はいろいろありますが、AUNの方々など他の楽器と合奏すると、新たに琵琶の可能性を感じています。ドレミの音階ではなく、撥で4弦を打ち下ろす打楽器的要素もあります。想像とは違う琵琶の魅力に触れられると思いますよ。

●AUN 公演情報・DISC情報

■AUN J クラシック・オーケストラ CONCERT 2019 ~THIS IS AUNJ~

会場 コラニー文化ホール 大ホール (山梨県甲府市寿町26-1)

日時 2019年2月27日(水) start 18:00

チケット 全席指定 S席5,000円/A席4,500円 ※未就学児童入場不可

お問い合わせ MIN-ONインフォメーションセンター TEL 03 (3226) 9999

詳細: <http://www.aunj.jp/jpn/livedisc/liveinfo/schedule.html>

■「和楽器でアニソン」(Team J CLASSIC ORCHESTRA)

世代、国を超えて愛される日本文化「アニソン」を、同じく日本が誇る日本文化「和楽器」のみでカバー。「打上花火」「前前世」「ボクはヒーロー」「ウィアー」「めざせポケモンマスター」「ムーンライト伝説」「キューティーハニー」のほか、ジブリシリーズなど、新録8曲を含む計15曲。

CD: 2,160円 MP3: 1,500円

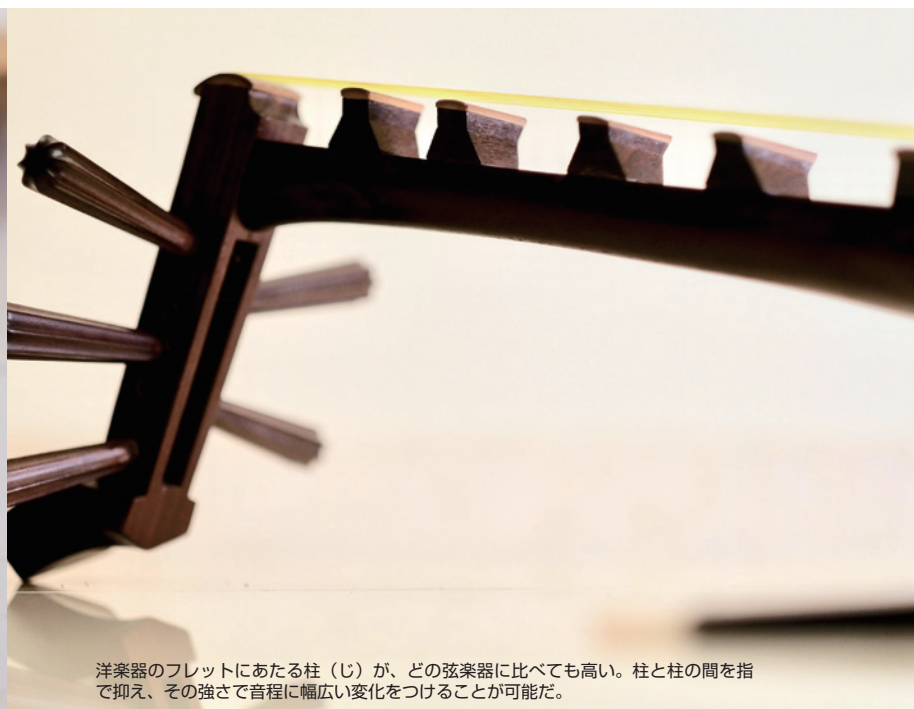


●監修者: AUNプロフィール

井上公平・井上良平。1969年大阪にて5人兄弟の末の双子として生まれる。1988年、和太鼓集団・鬼太鼓座(おんどごぞ)に出会い、高校卒業と同時に入座。2000年に「AUN」として独立。2009年、邦楽界で活躍する若手を集めて「AUN-J クラシック・オーケストラ」を結成。公演回数は国内外で1400回以上。子どもたちに日本文化の魅力を伝えるため、全国の小学校を訪問し、和楽器演奏と桜を植える活動もしている。



棹からほぼ直角に曲がった糸蔵(糸巻き)の形も特徴的。先端はその形状から海老尾と呼ばれる。



洋楽器のフレットにあたる柱(じ)が、どの弦楽器に比べても高い。柱と柱の間を指で抑え、その強さで音程に幅広い変化をつけることが可能だ。

コスチュームジュエリーアワード 2018

財団後援事業

2018年11月17日 カラートカにて
主催：コスチュームジュエリーアワード実行委員会

〈ブロンズ賞〉
産経新聞社賞



山田千代子氏
フュージョン
テクニク部門
「倉敷市藤花
～復興への祈り～」



〈シルバー賞〉
生涯学習開発財団賞



満月虹屈氏
シングル
テクニク部門
「盆栽収集」



〈ゴールド賞〉
桂由美賞



川島宏子氏
シングル
テクニク部門
「歌舞伎
「連獅子」」



〈グランプリ〉
文部科学大臣賞



斉藤佳代子氏
フュージョン
テクニク部門
「絆～東ね髪斗に
願いを込めて～」



2018年11月17日(土)、財団協賛会員の株式会社オールバウトライフワークスが実行委員会を運営する「コスチュームジュエリーアワード2018」が開催された。当財団が後援し、事務局長・佐藤梨奈が生涯学習開発財団賞を授与した。「コスチュームジュエリー」は、1927年にココシャネルが発表したもので、本物の宝石ではなくガラスビーズや模造真珠を使ったアクセサリーの総称。「何カラットの宝石を身に着けるかではなく、大切なのは洋服にいかにもマッチしたジュエリーをつけるか」とシャネルは提言する。

今回のテーマは「日本の美」、海外に向けて伝えたい日本の美しさが課題だった。525点応募された中から156点が入賞し、会場であるカラート71に展示。同日のレセプションにて表彰された。

実行委員会会長の桂由美氏はショー開催中の上海から「作品のレベルに驚いた。日本人の美意識が高くなったのを感じる」とメッセージを寄せた。江幡哲也実行委員会副会長は「以前は、ビーズアートジャパン大賞だったが、名前を変えて、こんなにレベルが上ってよかった」とあいさつで述べた。アクセサリーミュージアム館長で審査員でもある田中元子氏は「丁寧に心をこめて作られている。これからも夢を持って取り組んでほしい」と讚えた。

グランプリ受賞の斉藤氏は「出品が目標だったのでグランプリは驚き」、ゴールド賞の川島氏は「わかってもらえるか不安だったので心からうれしい」、シルバー賞の満月氏は「大きな励みになった」、ブロンズ賞の山田氏は「水害にあった倉敷市復興への祈りを込めた」とコメントした。



↑展示された入賞作品を見ながら交流する参加者たち



↑あいさつする実行委員会副会長の江幡哲也氏



←菱倉英一実行委員会事務局長



→レセプションでブティック社・内藤朗社長の音頭による乾杯

